

※実施日程が変更になる場合があります。プログラムの詳細は、各大学のシラバス等で確認をしてください。

# 01

Step-up  
プログラム

## 問いの創出

主な対象：1~2年生

	大阪公立大学	大阪大学 (2024年度から新規開講)
科目名	キャリアと実践1	キャリアデザインと社会実装 I
第1回目	10月12日(土) ※10時30分~17時	10月12日(土) ※10時30分~17時
第2回目	11月16日(土) 午後	11月16日(土) 午後
第3回目	12月26日(木) 午後	12月21日(土) 午後
第4回目	2月7日(金) 午後	2月8日(土) 午前
第5回目	2月8日(土) 午前	
2月8日(土) 午後 交流プログラム実施		

午前=9時00分~12時30分 午後=13時~17時30分

# 02

Jump-up  
プログラム

## 問いの実践

主な対象：2年生

	大阪公立大学 (2024年度から新規開講)	大阪大学 (2024年度から新規開講)
科目名	キャリアと実践2	キャリアデザインと社会実装 II
第1回目	4月20日(土) ※全日	
第2回目	5月18日(土) ※全日	
第3回目	6月15日(土) ※全日	
第4回目	7月13日(土) ※全日	

全日=9時30分~17時30分

プログラム問い合わせ先

大阪公立大学 ▶国際基幹教育機構/市田 (いちだ) h.ichida@omu.ac.jp

大阪大学 ▶キャリアセンター/家島 (いしま) ieshima@career.osaka-u.ac.jp

### 授業アンケートより

- |  |   |   |
|--|---|---|
| <p><b>Q</b> 授業を受けたことで感じる成長を教えてください！</p> <p><b>A</b> チームでの経験を経て、自分には何が得意で何が不得意かがわかった。</p> <p><b>A</b> 自分の意見を主張するだけでなく、チームを考えた言動により全体を円滑に回す力が得られた。</p> | <p><b>Q</b> メンターから学んだことを教えてください！</p> <p><b>A</b> 物事を抽象的に一般論として分かりやすく説明する重要性。</p> <p><b>A</b> ビジネスで重要にされている考え方や視点。</p> | <p><b>Q</b> 授業全体の感想は？</p> <p><b>A</b> 4回目のワークショップが終わったあとの達成感がとてつもなく大きかった。</p> <p><b>A</b> 授業の掲げる理想や自発的な行動に任せる授業スタイルが良かった。</p> |
|--|---|---|

※2023年「キャリアと実践1～問いの創出～」(大阪公立大学)の取り組みから



2024年度  
受講生募集

“解”  
のない時代





転換期の社会に求められる力を培うための  
産学連繋型教育プログラム：QBIC (キュービック)

Question-Based Innovation and Career education program for societal transition



## 「問いを立てる力」と「学び続ける力」



### Question

多様なミカタ／多面的な捉え方による「問い」の創出

### re-Build of Question & prototyping

「問い」の実践によって「解のない」時代への向き合い方を学ぶ

### self-Improvement

変化に挑戦する姿勢と自信を身に付ける

### Continuous learning

転換期の社会に必要な教養力を学びあうことで培う

解のない時代と言われるほど、予測困難であり前例が通用しない転換期を迎えた現代社会。これまでの連続的な成長感を求める思考ではなく、突然訪れる不連続な社会にも対応していくための思考が必要になります。そのためには、何が問題なのかを深く思考するための「**問いを立てる力 (問題発見/設定力)**」と、自身の学びによって不連続性を繋げて行くことを志向した「**学び続ける力**」が求められます。

これらの力を培うためにQBICプログラムでは、「産」と「学」が連繋したリベラルアーツ教育とキャリア教育が融合した2つのプログラムを実践し、リベラルアーツに支えられた思考力と自らのキャリア観にもとづくこれからの時代の教養力を醸成します。

## 01 自らの視点で社会の中の問題を再定義 (問題発見) する Step-up プログラム **問いの創出**

自らが生きる未来社会を描きつつ、現代の社会問題に対してチーム内での徹底的な議論を行うことで、多様な視点から「問いを立てる」ことを目標に、これからの時代の教養力を身につけるためのプログラム。良い「問い」は良い「学び」から生まれることを学ぶ。

実施科目	
大阪公立大学	「キャリアと実践」 (総合教養科目、キャリアデザイン科目) 配当年次：1～2年次、後期集中
大阪大学	「キャリアデザインと社会実装Ⅰ」 (全学共通教育科目 アドヴァンスト・セミナー) 後期集中

## 02 他者との学びあいを中心に「問い」を社会に対して実践する Jump-up プログラム **問いの実践**

事例分析を土台にSDGsなどの社会問題に対する自ら(チーム)のミカタで解像度を上げていくことで、社会において必要とされる「問い」と課題解決策を実践ベースで考え抜くプログラム。良い課題解決策は、良い「問い」から導かれることを学ぶ。

実施科目	
大阪公立大学	「キャリアと実践2」 (総合教養科目、キャリアデザイン科目) 配当年次：2年次、前期集中
大阪大学	「キャリアデザインと社会実装Ⅱ」 (全学共通教育科目 アドヴァンスト・セミナー) 前期集中

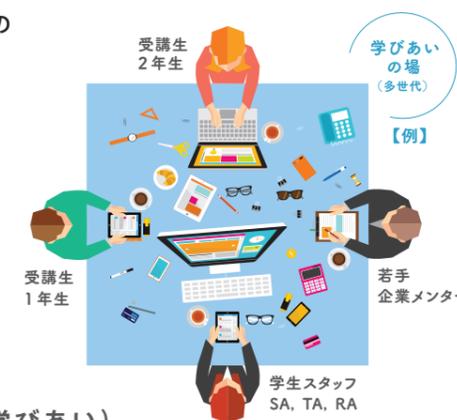
4つの観点から、未来社会に対応するための教養力を醸成していくことを目的に、「**問いを立てる力**」「**学び続ける力**」を育成していきます。



### 「問いを立てる力」(「問い立て」にむけた教養力の育成)

これからの社会において必要とされる良いソリューションは良い「問い」から導かれることに鑑み、プログラム全体では4つのプロセスを実践することで、これらの社会において必要な力を培います。この一連の過程を通して、これからの社会において必要となる「問い」を研ぎ澄ましていくことに挑戦します。

- 1 教員や社会人メンターによる支援と分野を超えた学生同士の対話により問題の切り口に対する多様なミカタを獲得する
- 2 リサーチクエスション (仮説) を立てる
- 3 キャリア観から導かれる未来のビジョンを描く
- 4 未来社会に向けた「問い」を設定する



### 「学び続ける力」(共創による学びあい)

産学連繋により、世代や立場が多様なメンバーで構成される学びを実践する場を共創します。受講生、学生スタッフ、教員、社会人など、立場が異なる様々なメンバーが参画することで普段の授業では交わらない他者と切磋琢磨し世代を超えた学び合いから「学び続ける力」を醸成していきます。



QBICプログラムでは、多様なメンバーが学び合いの場を形成(共創)し、それぞれの立場での学び(成長)に重点をおくことで、学びの世代間の循環が形成されることを目指していきます。特に大学1～2年次生に対しては、学び(学び方)の形成を高校から大学そして社会へと転換させるための重要な転換(接続)点でもあり、これから描くキャリアの中で一直線に繋がった学びを意識することで「学び続ける力」が醸成されることを期待します。多種多様なメンバーが集まり、現在の社会問題に対して多角的なミカタや切り口から、今後の社会がどのように変容していくかを考えることで未来共創の場を形成していくことも、もう1つの目的です。



前年度ワークショップの様子。産学連繋による循環する学びの場を形成した。